

令和7年度 病害虫発生予察情報

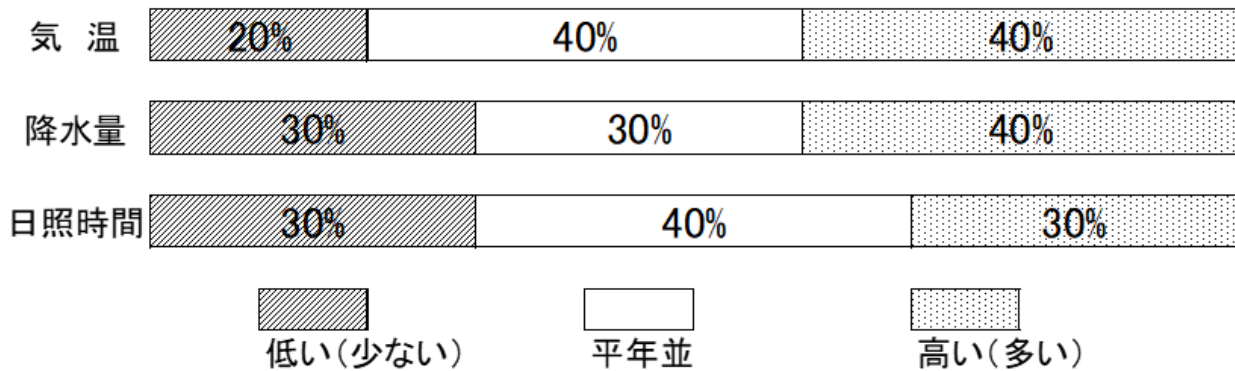
発生予報第3号（6月）

令和7年6月2日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	ヒメトビウンカ	平年並
		ニカメイチュウ	やや多い
		イネミズゾウムシ	平年並～やや多い
		セジロウンカ	平年並
果樹	ナシ	黒斑病	平年並～やや多い
		黒星病	平年並～やや多い
		シンクイムシ類	平年並～やや多い
		ハマキムシ類	平年並～やや多い
		ハダニ類	平年並～やや多い
野菜	カキ	カキタアザミウマ	平年並
	タマネギ	ボトリクス属菌による葉枯れ	平年並
		べと病	少ない
		腐敗病・軟腐病	やや少ない

中国地方1か月予報(5月31日～6月30日・広島地方气象台5月29日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 普通作物

1) イネ

(1) ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方 県内全域

発生時期 平年並

発生量 平年並

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は5月第5半旬まで認めていない。
- ② 5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は4.8%（平年7.9%）、捕獲数は0.05頭/50株（平年0.2頭）と発生量は平年並みである。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に対してやや助長的である。

(2) ニカメイチュウ (第1世代)

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は5月1日(平年5月3日)で平年並み、5月第5半旬までの誘殺数は330頭(平年8.1頭)で平年に比べて多い。
- ② フェロモントラップへの飛来は5月13日(平年4月23日)で平年に比べて遅く、5月第5半旬までの誘殺数は51頭(平年75.7頭)と平年並みである。
- ③ 前年の第2世代成虫発生量は、予察灯では42頭(平年16.3頭)と平年に比べて多い。フェロモントラップでは5頭(平年52.8頭)とやや少ない。以上の傾向から本種の越冬量はやや多いと考えられる。
- ④ 向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

(3) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並～やや早い
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は14.3%(平年25.6%)とやや少なく、捕獲数は0.38頭/50株(平年0.70頭)と発生量は平年並みである。
- ② 予察灯への初飛来は5月1日(平年5月4日)でやや早い。5月第5半旬までの誘殺数は126頭(平年23.6頭)と平年に比べて多い。
- ③ 前年の新成虫の予察灯による誘殺数は293頭(平年101.2頭)と本年の越冬量は平年に比べて多いと考えられる。
- ④ 向こう1か月の気象は、本種の発生を抑制する要因とはならない。

(4) セジロウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
飛来時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は5月第5半旬まで認めていない。
- ② 5月下旬の巡回調査で、発生を認めていない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生に対してやや助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発病葉率1.0%(平年1.0%)と、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 5月下旬の巡回調査では、発病葉率0.2%(平年0.1%)と、発生量は平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①フェロモントラップでの初飛来日は4月10日と平年並みである。
- ②フェロモントラップでのナシヒメシンクイの5月第6半旬までの誘殺数は33頭(平年44.9頭)と平年並みである。
- ③前年のナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺数は平年並みであり、越冬量は平年並みと考えられる。
- ④向こう1か月の気象は、本種の発生に対してやや助長的である。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 やや早い
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①フェロモントラップでの初飛来日は4月7日と平年に比べてやや早い。
- ②フェロモントラップでのハマキムシ類の5月第6半旬までの誘殺数は平年並みである。
- ③向こう1か月の気象は、本種の発生に対してやや助長的である。

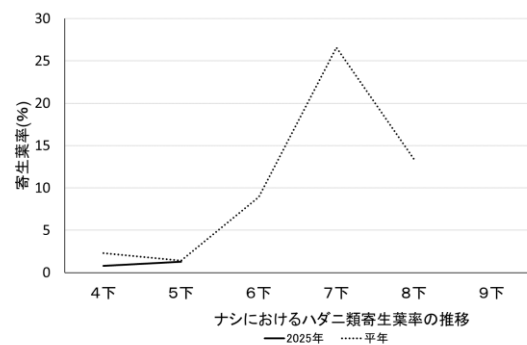
(5) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ①バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量は少ない。
- ②5月下旬の巡回調査(安来市)では主要種はクワオオハダニで寄生葉率は1.3%(平年1.4%)と平年並みである。
- ③向こう1か月の気象は、本種の発生に対してやや助長的である。



2) カキ

(1) カキクダアザミウマ

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ①5月上旬までに黄色粘着トラップでの越冬成虫の誘殺は認められない。
- ②5月20日に予察園において本種による巻葉被害を確認した。
- ③向こう1か月の気象は、本種の発生に対してやや助長的である。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠

- ①5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率20.0%(平年17.7%)、発病株率1.4%(平年0.6%)と、発生量は平年並みである。
- ②向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(2) ベと病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 少ない

予報の根拠

① 5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率 20.0% (平年 68.1%)、発病株率 0.6% (平年 22.7%) と、発生量は平年に比べて少ない。

② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(3) 腐敗病・軟腐病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 5月下旬の巡回調査では、発生ほ場率 35.0% (平年 45.5%)、発病株率 1.9% (平年 4.2%) と、発生量は平年に比べてやや少ない。

② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

農林水産省ホームページには、農薬登録情報提供システムが掲載されています。

農林水産省農薬登録情報提供システムのアドレスは <https://pesticide.maff.go.jp/>

島根県病害虫防除所 (島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)

〒693-0035 出雲市芦渡町 2440

TEL 0853-22-6772、FAX 0853-24-3342

ホームページアドレス

http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/

e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp